

生徒が成長実感を持てる 指導と評価を追求し続ける

CANIDORリストやシラバスの開発に早くから取り組んできた福岡県立香住丘高校。先駆的な英語教育で地域の信頼を得てきた同校は、生徒の英語力のさらなる向上を目指し、生徒が成長を実感できる指導と評価を模索し続けている。

生徒の現状

英語力向上に励む生徒の意欲を
着実に高めていくために

福岡県立香住丘高校では、「聞く・読む・話す・書く」の4技能を統合し、「知識・理解」「関心・意欲・態度」などの4観点をバランスよく評価する授業をいち早く実践してきた。1985年に県内の公立高校として初めて英語コースが設置されて以来（94年に英語科に改組）、先進的な英語教育とカリキュラム開発に取り組んできた。2003年度のSELHI研究指定以来、CANIDORリストの開発・研究に力を入れ、13年度から実施の現行学習指導要領で求め

られている「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」授業の実践のため、教科書をベースとした「観点別シラバス」の作成にも着手した。

その結果、地域の生徒、保護者からの同校の英語教育に対する評価は着実に高まったと、教育振興課長で2学年担任を務める木村雄一先生は語る。

「本校は、英語科だけでなく、数理コミュニケーションコースを含む普通科においても、中学生向けの説明会などで充実した英語教育を紹介しています。そのため、英語科、普通科を問わず、生徒は『高校では英語を頑張ろう』という思いを持って

入学してきていると思います」

さらに、近年の生徒は「話す」「書く」活動に対する抵抗感が少ないと木村先生は説明する。英語の授業が始まる前の休み時間のうちからペアやグループで言語活動を始める生徒も多く、英語の授業を心から楽しんでいる生徒が増えたと感じている。

ただ、生徒の多くは英語学習に対して意欲的であるが、入学段階での英語力については、多層化しているのが同校の現状だ。

「英語が決して得意とは言えない生徒も、周りの生徒の力を借りながら、意欲的に言語活動に取り組んでいます。そうした生徒の姿を見る度に、うれしく思う反面、英語科の教

師として、すべての生徒の英語力を着実に高め、生徒一人ひとりの希望進路の実現に全力を尽くそうと、気を引き締めています」（木村先生）

指導と評価の計画上の工夫

生徒が自身の成長を
把握できる授業へ

そうした状況に向き合う中で近年、同校の英語指導では、一人ひとりの生徒が自分の成長をより詳細に把握できるよう働きかけを重視している。1学年英語科副担任で、普通科の英語の授業を多く担当する山本聡子先生は説明する。「パフォーマンスを評価する場合

設立 1984 (昭和59) 年
形態 全日制/普通科(一般コース、数理コミュニケーションコース、英語科/共学)
生徒数 1学年約400人
2021年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、東京外国語大、大阪大、広島大、九州大、熊本大、国際教養大、神戸市外国語大などに183人が合格。私立大は、慶應義塾大、国際基督教大、上智大、早稲田大、同志社大、関西学院大などに延べ974人が合格。

学校概要



山本聡子
 英語科副担任・1学年英語チーフ
 やまもと・さとこ
 教職歴14年。同校に赴任して6年目。英語科。



木村雄一
 教職歴14年。同校に赴任して10年目。英語科。



吉武勲
 英語科教科主任
 よしたけ・いさお
 教職歴20年。同校に赴任して4年目。英語科。



龍本未知湖
 英語学科主任
 たきもと・みちこ
 教職歴21年。同校に赴任して6年目。英語科。



近藤圭太
 教務主任
 こんどう・けいた
 教職歴18年。同校に赴任して3年目。数学科。

は、複数回練習させた後で評価しています。1回目のチャレンジでの『できていない状態』を評価の対象にするのではなく、2回目、3回目のチャレンジで『できるようになった状態』をルーブリックに照らし合わせて評価することで、生徒に自身の成長を実感させることが、英語科全体の共通認識となっています。また、練習を前提にすることで、教師がルーブリックで設定する評価規準が高くて、生徒は『この状態まで成長できるはず』と、高い目標にも前向きに挑戦しようとしています」

パフォーマンス活動ごとにルーブリックを示すこと(図1)を徹底し、生徒の実態に寄り添った指導と評価を模索する中で、評価の仕組みの改良の必要性を感じていると、英語学科主任の龍本未知湖先生は言う。

「英語科の生徒たちは、CAN DO リストの記述を強く意識し、『できるようにしよう』と学習に臨みますが、英語力が多様な普通科には、CAN DO リストを自身の到達度の把握のツールとして活用できていない生徒もいることに気づきました。本校の普通科の生徒は真面目に学習にも取り組み、自己評価は厳し

図1 ルーブリックが示されている、パフォーマンステストのワークシート

The worksheet is titled 'Lesson 6 Stonehenge - The Facts and Mysteries' and 'プレゼンテーションに挑戦しよう'. It contains several sections: 1. Goal, 2. Schedule (with a table of dates and activities), 3. Choices of Subjects (World Heritage Sites), 4. 4 Topics to include in your presentation, 5. Rules, 6. Evaluation (with a rubric table), and 7. Group Member (with a table for peer evaluation). The rubric table has columns for Category, 3, 2, and 1, and rows for Voice Projection, Pronunciation, Eye Contact, Preparedness and Organization (Materials), and Preparedness and Organization (Cooperation). A 'TOTAL /15' box is at the bottom right of the rubric. The group member table has columns for Subject (World Heritage Site) and Group Member, with rows for 1 What is..., 2 Why is... listed as the World Heritage Site?, 3 Mysteries of..., and 4 Problems... faces today. A callout box points to the 'リーダーにアンケート' (Survey for the leader) section.

めです。そのため、CAN DO リストの中の『できていない』という記述を、『完全にできていなければ

らない』と解釈する傾向があります。本校に勤務された先輩の先生方も、『CAN DO リストがCAN NOT

パフォーマンステストや言語活動を行う度にルーブリックで自己評価することで、生徒は自身の英語力の向上を実感することができる。
 ※学校資料をそのまま掲載。

図2 課末の言語活動概要

福岡県立香住丘高等学校 36期生 コミュニケーション英語II Perspective

<1年次>

課	目標	内容
Lesson 3	・料理関連の表現に慣れ親しむことができる。 ・SVOの英文を正しく作ることができる。	・料理関連の表現(動詞を中心に)をイラストと一致させるクイズを行う。 ・「ホストファミリーへ和食レシピを作って紹介する」という設定で、Guess What Quizをペアで互いに発表する。
Lesson 4	・生きた英語に慣れ親しむことができる。 ・英語プレゼンの基本技術(声の大きさ・アイコンタクト等)を習得する。	・英字新聞(New York Times)読解 ・オバマスピーチ視聴&ディクテーション ・Influential Japaneseのプレゼン原稿を作成し、Show & Tell形式でペアに発表する。
Lesson 5	・生きた英語に慣れ親しむことができる。 ・意見とその理由を論理的に説明できる。 ・英語での手紙の書き方を習得する。	・マクススピーチ視聴&ディクテーション ・the most impressive partについて、ペアで意見を交換する。 ・マラフへ実際に手紙を書き、送ってみる。
Lesson 6 Lesson 8 世界遺産 大会!	・プレゼンの基本的な構成を学ぶ。 ・ディスコースマーカーを上手に使用して、一貫してまとまりのある英文を作成することができる。 ・Visual Aidの効果的な使い方を習得する。	・世界遺産について各班で一つ選び調べ、調べた内容を原稿とポスターにまとめて提出&演習指導、リポートしたものをもとに、班で協力しながら英語で発表する。プレゼンの際には、話し手と聞き手の2グループに分け、聞き手が時計回りに話し手のブースを訪問するため、話し手は同じ発表を繰り返し行うことになる。このため、話し手は発表するたびに上達していく。

※学校資料をそのまま掲載。

ードリストとならないように、生徒の現状に合わせて修正していくことが大切」と言われていました。生徒の学習意欲を高めるといふ観点から、CAN-DOリストについて改めて検討する時期が来ていると感じています」

シラバスについても、「記述されている活動や目指す状態は、生徒にとって理解しやすいものだろうか」「教師のためのものになっているのではないか」といった声が英語科内で上がるようになった。とはいえず、生徒が目指すべき状態をパフォーマンス

ンズテストごとのルーブリックで示すだけでなく、1年間を通して、どんな状態を目指すべきか、どのような学習の取り組み方を求めているのかを生徒に示すことも必要だ。

現在、英語科では、各レッスンの末で取り組む言語活動の内容と目標について、「課末の言語活動概要」(図2)を用いて生徒に説明している。生徒は、活動の概要を把握し、レッスンの末のパフォーマンステストを念頭に置くことで、「ここまでできるようになっておこう」と、目標を明確化して日々の授業に臨むことがで

図3 授業オリエンテーション

36期生 1学年英語 授業オリエンテーション

コミュニケーション英語1 (3単位)

使用教材 ①Perspective English Communication 1 教科書
②Perspective English Communication 1 本文完成ノート
③Perspective English Communication 1 生使用音声CD
④新コメタン0 (黄色; 中卒修了~高校基礎レベル)
⑤新コメタン1 (赤色; 大学合格必須レベル)

予習の仕方

1. 辞書を使わずに、本文を読む。
2. 本文完成ノートの右側の問題を解く。
3. 辞書を使いながら、もう一度本文を読み、フレーズごとに和訳する。
4. 本文完成ノートの右側の問題の答えを修正・完成させる。
5. 音声CDを利用して本文を聞き、音読する。

授業の準備方 ※基本的に授業は英語で実施。教科書P.8~9の表現を積極的に使ってみよう!

1. 単語テスト (新コメタン黄色からスタート)

授業最初の授業で実施。

- 1回目: UNIT 01~03, 100問 (英一日50問+日一英50問), 8割合格。
- 2回目: UNIT 04~06, 100問 (英一日50問+日一英50問), 8割合格。
- 3回目以降は、UNIT 07から50問ずつ進める。

20問 (英語を聞いてスベルと意味を書く)のうち、8割合格。

合格者の点数は英語係が記録し、授業後までに答案と記録表を担当者へ提出。不合格者は、やり直し5回ずつ進め、翌日昼休みまでに答案を担当者へ提出。

2. 教科書導入~新引出単語~本文リスニング (Lesson 3 Washokuからスタート)

速読問題 (ノート右側の英語英答)の答え合わせ

3. さらに細かい部分を開く英問英答
日本語を交えた重要文法項目の説明
精読問題 (ノート右側の残り)の答え合わせ

4. ペア活動 サイトラシートを使ってフレーズごとに英一日
5. 音読練習 Listen & Repeat / Overlapping / Shadowing
6. 各課の最後に表現活動 スピーチ・プレゼン・スキット

復習の仕方

1. 本文を音読し、内容を理解できているか確認する。
2. 音声CDを利用して本文を聞き、音読する。(覚えてしまつてもいい)

※定期考査直前は、教科書本文の音読テストを行う。
※定期考査やGTEC直前は、Winstop等を使用し対策を行う。

英語表現1 (2単位)

使用教材 ①Revised Vision Quest English Expression 1 Advanced (音テキスト)
②総合英語 Evergreen English Grammar 27 Lessons updated (録音テキスト)
③総合英語 Evergreen English Grammar 27 Lessons Workbook updated (ワーク)
④総合英語 Evergreen (参考書)

※学校資料をそのまま掲載。

きる。また、新たな試みとして、年度当初に「授業オリエンテーション」を配布し、各科目の予習・授業・復習の進め方、週末課題や長期休業中の課題の内容や取り組み方を生徒に伝えている(図3)。このように、「授業オリエンテーション」で年間を通して学習のポイントを、「課末の言語活動概要」で各レッスンの目標を、各授業で配布されるワークシートとルーブリックで具体的な活動の目標を示している。

「パフォーマンステストごとのルーブリックや『課末の言語活動概

要」によって、生徒は活動ごとに自分がどんな状態を目指しているのか、どのような規準で評価されるのかを具体的に理解できています。今後は、シラバスやCAN-DOリストを改定しながら、生徒により大きな評価規準を示していくことが求められていると思っています。目の前の一つひとつの授業を大切にしながら、生徒がどんな姿に成長するかを、今まで以上に明確に描くことが必要だと感じています」(瀧本先生)

外部アセスメントの役割

何が出来るようになるのかをイメージさせる機会に

「何が出来るようになるのか」をレッスンごと、または授業の言語活動ごとに伝えることで、自分は英語をどのよう使えるようになるのか、イメージできると、生徒の学びに向かう姿勢は大きく変わると言う。

「2年次2学期の『英語表現』では、ディベートに取り組みます。ディベートに至るまでには、教師が出した意見に対して質問や反論をさせたり、教師の質問を予想させて英文で書かせたりと、スモールステップで多様な言語活動を組み込みます。そうした活動の意味と学期末の活動とがつながりをもってイメージできた生徒は、授業の帯活動である1分間スピーキングでWPM（*1）が急増するなど、大きな成長を見せてくれます」（瀧本先生）

そうして日々の言語活動を積み重ねることによって自分は何が出来るようになったのかを、生徒が具体的にイメージできるように、同校では「GTEC」を受検させている。

『GTEC』のライティングは海

外で英語話者が採点していることを説明すると、生徒の意欲は明らかに高まります。海外を歩き来ることが難しい今だからこそ、どのような形であっても、外の世界とつながることを生徒は求めています。単に大学入試に役立つからといったこと

だけではなく、将来、どんなふうな社会で活躍したいのかを考える過程に、『GTEC』のようなアセスメントを位置づけ、生徒に受検することの意義と日々の学習とのつながりを語ることも、教師には求められていると思います」（木村先生）

さらに、英語科の生徒には、「エッセーライティングが得意であれば、大学や留学先で一目置かれる」「正しい文法を使いこなすことで、仕事でも信頼を勝ち得る」などと、英語を使って活躍している将来の自分がイメージされるような声かけも、日々の授業において行うようにしている。

今後の課題・展望

生徒の理解を深める

よりよい「問い」を追究

英語力を高めるための授業の実践を先駆的に進めてきた同校が、さら

なる授業改善のために取り組もうとしているのが、授業での「問い」の質の向上だ。同校の英語科では、教科書の内容を深く問う発問と、それに対して予想される生徒の答えを書き出した「シナリオ」（図4）を使用している。レッスンごとに作成担当の教師を決め、作成してきた本シナリオは、同校の英語科の授業の質の担保に大きく貢献していると、英語科教科主任の吉武勲先生は説明する。

「赴任したばかりの教師も、シナリオを見ることが、本校の生徒には授業中にどの程度のレベルの質問が

できるのかすぐに分かります。シナリオは、英語科の教師全員で作り、批評し合いますが、そうした活動によって、本校の英語科には、指導について対等に語り合う風土が醸成されています。指導のベースとなるシナリオがあるからこそ、そのシナリオを生かして、さらにどんな深い問いが考えられるかを、もつと教科内で語り合っていきたいと思っています」

22年度に向けては、観点別学習状況の評価など、教科を超えて学校全体で語り合うべきテーマも多いため、常に新しい取り組みに挑み続けてきた英語科への期待が大きいと、教務主任の近藤圭太先生は語る。

図4 シナリオ

Part 3
[Oral Introduction]

7. This is the last part of this lesson. So far, we have learned about a lot of important issues from the story of Khaled Reshad. Do you remember some of them? How he got interested in medicine and Japan? The story about the elderly couple who welcomed him into their home? The story of Afghanistan? The activities of the NGO helping people in Afghanistan? Every one of them is really important for understanding Reshad's story. In Part 4, we will see two important and symbolic things as we think about Reshad's medical activities. These two things are symbols of this entire lesson. So, reading this final part, please try to think about how they are associated with this lesson.

[1st paragraph]

1. What did Reshad's father express in his poem?
- He expressed the importance of uniting the Afghan people.

2. In Reshad's father's poem, why did the king refuse to accept a pair of scissors?
- Because he thought that scissors cut things, even people's minds.

3. What is needed to connect people?
- Needles and thread are.

[2nd paragraph]

4. What does Reshad think is important today?
- He thinks connecting people is.

5. Who does Reshad think needs help the most?
- He thinks elderly people who have serious diseases and others who have had injuries do.

6. To reach those who need help the most, what has Reshad been doing for many years in Japan?
- He has been making house calls.

7. What does Reshad believe is very important for medical professionals to do?
- He believes it is very important for them to go to those who need help.

[3rd paragraph]

8. What is an important lesson that Reshad has learned from his house calls?
- It is that doctors need to consider patients' lives as a whole when they examine them.

※学校資料をそのまま掲載。

「英語科の先生方からは、4技能5領域での観点別学習状況の評価の実践など、英語科ならではの検討課題があると聞いていますが、生徒本位の授業改善を続けてきた英語科の知見を基に、教科を超えて対話することが、本校全体の教育活動の改善につながると考えています」

*1 Words Per Minute の略。1分間あたりに読める単語数のこと。